

「NEXT GIGA スクール時代の新しい教育に向けて、デジタル機器を活用した学びの提案」

I 団体について

【団体の概要】

- 東京都中学校視聴覚教育研究会は、東京都内全ての公立中学校の教員で構成される研究団体である。
- 中学校視聴覚教育や情報教育の研究・調査並びにその普及・促進を図ることを目的とし、以下の事業を行う。
 - 1 中学校における視聴覚教育や情報教育に関する研究並びに調査
 - 2 中学校における視聴覚教育や情報教育の普及・促進並びにその施設の拡充に寄与すること
 - 3 関係諸団体との連絡、提携を図ること
 - 4 その他、本会の目的達成に必要な事業

【活動の基本方針】

- 1 生徒の学びを中心に据えた ICT 活用の探究
ICT を目的ではなく「学習の質の向上」のための手段として位置付け、生徒が主役となる学びを実現する。
- 2 普遍性のある指導モデルの構築
学校規模・教科・環境の差を越えて全公立中学校で活用できる実践知を蓄積する。
- 3 教員の ICT 指導力向上支援
授業者の指導力の向上を支援し、指導への自信をもたせることで、誰もが効果的に ICT を活用できる体制をつくる。
- 4 安全安心な学びの ICT 環境整備への提言
情報モラル教育、校務効率化、管理面の改善など NEXT GIGA に求められる諸課題に取り組む。
- 5 多様な学びを保障する視聴覚教育・情報教育の融合
特別支援教育や協働学習、創造的な表現活動等、多面的な教育価値を追究する。

II 年間活動について

【研究会の活動】

- 令和7年度の活動は以下のとおりである。
- 1 定期総会 6月14日<土>会場 江戸川区立清新第二中学校
・前年度の活動報告、本年度活動計画及び組織等の承認
・研修会『江戸川区のICT教育』『ClassPad.netの活用』
 - 2 夏季研修会 ①8月1日<金>会場 墨田区立錦糸中学校
・CanvaやPadletを活用した授業づくり(ワークショップ)
講師 鎌倉女子大学 講師 古川 俊 先生
練馬区立石神井台小学校 主任教諭 古矢 岳史 先生
 - 3 夏季研修会 ②8月8日<金>会場：Apple Japan 六本木
・iPadアプリを活用した授業づくり(ワークショップ)
 - 4 秋季研修会 9月25日<木>会場：墨田区立錦糸中学校
・NotebookLMで業務効率化 他(ワークショップ)
講師 GIGAスクールアクセラレーター 辻 史朗 先生
 - 5 第51回全日本教育工学研究協議会・茨城つくば大会
11月14日<金>・15日<土>会場：つくば国際会議場 他
・授業公開、基調講演、特別講演
・ワークショップ、研究発表、パネルディスカッション
 - 6 令和7年度関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会神奈川大会
11月15日<土> オンライン
・授業公開、分科会、記念講演
 - 7 第29回視聴覚教育総合全国大会
第75回放送教育研究会全国大会 合同大会
11月29日<土> オンライン
・セミナー、ワークショップ、実践発表会、全体会
 - 8 授業公開 12月19日<金>会場 墨田区立錦糸中学校
・授業公開、分科会、講演
講師 文部科学省「学校DX戦略アドバイザー」田中 康平 先生

III 実践事例

「改訂版タキノミー」を活用した授業デザインの実践(第1学年英語)

授業者 墨田区立錦糸中学校 窪田 良行

本校第1学年英語科では、生徒が文章の理解から再構成・表現へと段階的に学びを深める授業を実施した。本時では、短い物語を読み取り、登場人物の行動や場面のつながりを整理した上で、表現効果を比較し、自分なりの工夫を加えて作品を再構成する活動を行った。生徒は、ワークシートで構造を分析し、Clipsを用いてBGMや画像を選択しながら物語の伝わり方を評価した。その後、Padletに共有されたクラスメイトの作品を参考に、自分の表現を改善した。準備段階では、分析の観点やモデルの提示、ツールの操作説明を行い、評価の視点を共有させることで作品を客観的に判断し合う姿を促した。本実践を通して、生徒は「読む」段階から「比較・評価し、創り出す」段階へと学習を進め、英語表現とデジタル活用を統合した深い学びを実現できた。

1年1組 教科：英語 単元名「A Short Story in English」  デジタル・タキノミーテーブル (Digital Taxonomy Verbs×道具・手立て×観点別評価) 

知識次元	学習目標 学習者の動詞 道具・手立て	認知過程次元 (学びの深さ)					
		①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
A_事実的知識	学習目標	①進出単語や文法を正しく理解し、発音できる。		③教科書本文や英語活字を音読をこめて読むことができる。	④複数の英語活字を読み、その内容を把握することができる。		
	学習者の動詞	読む、音える		真似る、演じる、読む	読む、調べる 比較する		
B_概念的知識	道具・手立 (ICT含む)	ロイノート (SSMシート)		録音 (Clips)	ワークシート (英語活字)		
	学習目標		各課表のBGM種類から、場面設定のものを選択できる。	関連づける 選択する			自分の選んだ英語活字の構成を設計しそれに合ったBGMを選定できる。
C_手続き的知識	学習者の動詞			Clips (音源) Padlet (投稿する)			Clips (音源)
	道具・手立 (ICT含む)			Clips (音源) Padlet (投稿する)			Clips (音源) Padlet (投稿する)
D_メタ認知的知識	学習目標			自分の選んだ英語活字の構成を設計しそれに合ったBGMを選定できる。			
	学習者の動詞			録音する、工夫する 実行確認する	真似る、演じる、読む 比較する		真似る、演じる、読む 比較する

3観点	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
評価標準 単元を通して読む力	話書や基本文を理解し、場面に応じて正しく発音したり書いたりしている。	物語の概要を捉え、どのような演出 (BGM) が効果的か判断できている。声のトーンやBGMを工夫し、英語で感情を伝えることができる。
評価方法 単元テスト、授業時、実演等	単元テスト、練習時の観察 提出物の内容確認	最終提出物をもとにワークシートに基づいて評価する padletの相互フィードバック
評価の機会 単元の途中、最後、再評価のタイミング	単元テスト時 最終発表、課題提出	練習への取り組み 自己評価シート 練習活動時の観察 padletのコメント

IV 研究の成果と課題

【研究の成果】

本年度は、NEXT GIGA の新しい教育に向けた研究活動を進める中で、以下のような成果が見られた。

- 1 夏季研修会への参加者が例年に比べて大幅に増加し、教員の ICT 活用や生成 AI への関心の高まりが明確となった。特に生成 AI をテーマとした研修は人気が高く、受講者からは「実践に生かしたい」「わかりやすく学べた」との評価が多く寄せられた。
- 2 事務局員が増えたことで組織運営の体制が強化され、研修や調査活動がより円滑に進められるようになった。

【今後の課題】

- 研究活動を進める中で、いくつかの課題も明らかになった。
- 1 研究授業の公開を希望する学校が少なくなっている点が挙げられる。研究授業の重要性は理解されているものの、教員の働き方改革の影響により、研究授業の公開による負担を避けたいと考える学校が増えているように感じられる。その結果、研究授業の場を十分に確保することが難しくなりつつある。
 - 2 ICT 機器や生成 AI の進化が非常に速いことから、継続的に教員を支援する体制の整備や、研究内容をより体系化し、実践知として蓄積していく仕組みの構築が今後の課題となる。

<令和7年度連絡先>

団体名		東京都中学校視聴覚教育研究会	
代表者	所属	墨田区立錦糸中学校	
	職 氏名	校長 和田 浩二	
	連絡先	03-3625-0375	
事務局	所属	墨田区立文花中学校	
	職 氏名	主幹教諭 須永 健一	
	連絡先	03-3617-0264	
		URL	二次元コード
団体ホームページ		https://www.tochushiken.com/	